



浮腫、むくみ

知っておきたい
漢方4処方



悪心、嘔吐、
頭痛、めまい

口渇、尿量減少するものの次の諸症
浮腫、下痢、糖尿病に

17 ツムラ五苓散
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



尿量減少、
浮腫、口渇*

吐き気、食欲不振、のどのかわき、
排尿が少ないなどの次の諸症
むくみ、急性胃腸炎に

114 ツムラ柴苓湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

多汗で尿量減少、
関節の腫脹・疼痛*



色白で筋肉軟らかく水ぶとりの体質で疲れやすく、
汗が多く、小便不利で下肢に浮腫をきたし、
膝関節の腫痛するものの次の諸症

浮腫、腎炎、ネフローゼに

20 ツムラ防己黄耆湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



老人や
体力の低下した人で
下肢の脱力感、冷え、
しびれなどがある*

疲れやすくて、四肢が冷えやすく尿量減少または
多尿で時に口渇がある次の諸症

むくみ、排尿困難、頻尿に

107 ツムラ牛車腎気丸
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

*使用目標=証 監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学) 裏面参照

17 ツムラ五苓散エキス顆粒(医療用)

効能又は効果
 口渴、尿量減少するものの次の諸症:
 浮腫、ネフローゼ、二日酔、急性胃腸カタル、下痢、悪心、嘔吐、めまい、
 胃内停水、頭痛、尿毒症、暑気あたり、糖尿病

〈参考証に関する情報〉 使用目標=証*

口渴ならびに尿量減少を主目標として用いる。
 1) 浮腫、悪心、嘔吐、頭痛、めまいなどの症状を伴う場合。
 2) 心窩部に振水音を認める場合。

(2014年10月改訂)

使用上の注意(抜粋)

1.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

2.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明	注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒疹等	
肝 臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP等の上昇)	

20 ツムラ防己黄耆湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果
 色白で筋肉軟らかく水ぶとりの体質で疲れやすく、汗が多く、小便不利で
 下肢に浮腫をきたし、膝関節の腫痛するもの次の諸症:
 腎炎、ネフローゼ、妊娠腎、陰囊水腫、肥満症、関節炎、癰、癩、筋炎、浮腫、
 皮膚病、多汗症、月経不順

〈参考証に関する情報〉 使用目標=証*

比較的体力が低下し色白で筋肉軟らかく、いわゆる水ぶとり体質の人が、全身倦怠感、多汗傾向を訴える場合に用いる。
 1) 浮腫、尿量減少、関節(とくに膝関節)の腫脹・疼痛などを伴う場合。

2.相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔「重大な副作用」の項参照〕	グリチルリチン酸は尿管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

(2007年5月改訂)

107 ツムラ牛車腎気丸エキス顆粒(医療用)

効能又は効果
 疲れやすくて、四肢が冷えやすく尿量減少または多尿で時に口渴がある
 次の諸症:
 下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、かゆみ、排尿困難、頻尿、むくみ

〈参考証に関する情報〉 使用目標=証*

比較的体力の低下した人あるいは老人で腰部および下肢の脱力感、冷え、しびれなどがあり、
 排尿の異常(特に夜間の頻尿)を訴える場合に用いる。
 1) 上腹部にくらべて下腹部が軟弱無力の場合(臍下不仁)。
 2) 多尿、頻尿、乏尿、排尿痛などを伴う場合。
 3) 疲労倦怠感、腰痛、口渴などを伴う場合。
 4) 高齢者の虚弱(フレイル)などで衰弱している場合。

使用上の注意(抜粋)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)体力の充実している患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。] (2)暑がり、のぼせが強、赤ら顔の患者[心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等があらわれることがある。] (3)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹部膨満感、腰痛、下痢、便秘等があらわれることがある。] (4)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。フソを含む製剤との併用には、特に注意すること。

3.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1) 間質性肺炎: 発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2) 肝機能障害、黄疸: AST(GOT)、ALT(GPT)、AI-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

	頻度不明	注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒疹等	
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹部膨満感、腰痛、下痢、便秘等	
その他	心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ等	

(2014年10月改訂)

114 ツムラ柴苓湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果
 吐き気、食欲不振、のどのかわき、排尿が少ないなどの次の諸症:
 水瀉性下痢、急性胃腸炎、暑気あたり、むくみ

〈参考証に関する情報〉 使用目標=証*

体力中等度の人で、心窩部より季肋部にかけての苦満感、ならびに抵抗・圧痛(胸脇苦満)があり、尿量減少、浮腫、口渴などを伴う場合に用いる。

3.相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔「重大な副作用」の項参照〕	グリチルリチン酸は尿管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1) 間質性肺炎: 発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2) 偽アルドステロン症: 低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3) ミオパチー: 低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。4) 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸: 劇症肝炎、AST(GOT)、ALT(GPT)、AI-P、γ-GTP等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

	頻度不明	注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。 注2)このような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒疹、尋常性皮膚炎等	
消化器	口渴、食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹部膨満感、腰痛、下痢、便秘等	
泌尿器 ^{注2)}	頻尿、排尿痛、血尿、残尿感、膀胱炎等	
その他	全身倦怠感	

(2013年3月改訂)

※使用目標=証 監修: 大塚恭男、花輪壽彦(北里大学)

■ 用法及び用量: 通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。※(TJ-114)は1日9.0g)
 ■ 日本標準商品分類番号: 875200 ■ 薬効分類名: 漢方製剤 ■ 取扱い上の注意: (貯法) しゃ光・気密容器/(使用期限) 容器、外箱に表示
 ■ 製造販売会社: 株式会社ツムラ

・ 組成・性状、その他の使用上の注意(高齢者への投与・妊婦、産婦、授乳婦等への投与・小児等への投与、その他の注意)、包装、関連情報(承認番号、薬価基準収載年月、販売開始年月等)については製品添付文書をご覧ください。〔使用上の注意〕等の改訂には十分ご留意下さい。

(2015年3月制作)
 (2017年7月改訂)

PSD010 (審)